

## 岩手県野田村の支援・交流活動報告（2014年6月21日）

梅雨の真ただ中の活動日だったので雨が心配されましたが、この日の朝の弘前は曇り。何とか雨に濡れずに出発できました。この日の参加者は、学生が7名と市民の方が18名、教員1名の計26名です。出発してからも比較的スムーズに進み、10時30分頃野田村に着きました。現地で4名の方が加わり、30名での活動になりました。野田村も幸い曇りで、天候には恵まれました。ただ、弘前よりも若干気温が低く、肌寒さを感じる程でした。



道の駅「おりつめ」での集合写真。

今回の活動は、野田中学仮設集会所と野田村総合センターの2か所に分かれて行きます。野田中学仮設集会所では、4月にも行ったタオル帽子作りと交流茶話会が行われました。野田村に到着した時点で、すでに数人の方が集会所内で待っていて下さいました。大急ぎで準備にかかります。午前中は10名くらいの方が、午後も3名くらいの方がいらして、市民・学生と、お茶を飲みながら、お話をしながら、そしてタオル帽子を作りながら和気藹々とした楽しい時間を過ごしていかれました。後から聞いた話ですが、前回タオル帽子作りに参加された方4人ほどが、4月の活動の後、集会所に集まって忘れないうちに作ってみようと言ってタオル帽子を作られたそうです。講師をお願いした赤石先生が喜んでおられました。仮設集会所の活動は、野田村の皆さんからストラップをいただいたり、ワカメをお土産にいただいたりと十分な交流がはかれたようです。



野田中学仮設集会所でのタオル帽子作りと交流茶話会の様子。この日は多くの方が参加してくれました。

仮設集会所の活動に関する、帰りのバスの感想ですが、「今回は多くの方が来て下さり、定着してきているなど感じた。」「前回よりも笑い声が凄くあった。楽しい一日だった。」「仮設の方に元気もらった。一日楽しく過ごせた。野田村の方の気遣いも嬉しかった。」「野田村の方にいろいろと教わった感じがする。いろんなお話をしながら笑いながら作業ができた。仮設の生活の話を聴けて勉強になった。」「最初ドキドキしていたが、ボランティアされる方の笑顔がよかった。明日からの生活していくエネルギーもらった。」「お話に花が咲いて嬉しかった。前よりもコミュニケーションをはかることができた。野田村の方たちの笑い声が聞けてよかった。」という声が聞かれました。また、野田村の方と一緒にご飯を食べるような企画はできないかというご提案もありました。

総合センターでは、小学生向けの児童クラブの学習支援と中学生向けの学習支援（通称「のんちゃんの隠れ家」）を同時並行で行う予定でした。しかし、残念ながら中学生向けの学習支援には参加者がなく、全員小学生向けの学習支援を行いました。小学生は相変わらず元気いっぱい飛び回っていました。学生と一部市民の方も参加されたのですが、圧倒されていました。遊びも多彩で、“鬼ごっこ”をしたり“ダルマさんが転んだ”をやったり、“コマ回し”をしたり“縄跳び”をしたり…。学生は汗びしょりになって活動をしていました。



会議室を借りて、思い切り走り回っていました。とにかく子どもたちは元気いっぱいです。



いつもの児童クラブの部屋でも、様々な遊びが繰り広げられていました。

総合センターの活動に関しては、「最初は気恥ずかしい感じがした。ドンドン慣れていって純粋に楽しく遊ぶことができた。」「最初は緊張していたが、子どもから似顔絵をもらったりして楽しい時間だった。あつという間だった。また来月も来たい。」「今日は普通のお姉ちゃんとして遊んだ。子どもたちも元気で、自分も元気をもらった。」「子どもたちのエネルギーは強いなと思った。もう少し体力つけて遊べるように頑張ろうと思った。」「コマ回しなど子どもたちに教わった。また来たいと思う。」という感想が聞かれました。小学生対象の学習支援は、子どもたちにも顔や名前を覚えてもらえるようになっていて、かなり定着しているなという印象を受けました。学生は体力的にきつそうでしたが…。

今回は、学生事務局卒業生の齊藤君と日野口さんが駆けつけてくれました。社会人となってもボランティアセンターの活動に関心を寄せて、後輩の激励に来てくれるのは嬉しい限りです。今後も、様々な人たちとの繋がりを大事にしながら、活動を続けて行きたいと思います。



応援に駆けつけてくれた事務局卒業生の2人。

(担当 平野 潔)